

大成建設 新国立競技場で「現場の歌」をつくる いったい何のため誰のためにつくるのか??

2020年の東京オリンピック開幕にあわせて、急ピッチで工事をすすめている「新国立競技場」現場で「現場の歌」が作られました。実際に現場で流れた歌は「ゆず」のような曲だったとのこと。

この現場では、一昨年の春に1次下請の地盤改良業者社員が過労死をし、最近では大成建設職員から「国家プロジェクトだからありがたいと思って働け」とパワハラ的に言われ、丸の内3-2現場で問題になった大成建設の企業体質が恒常的に現れています。

このような歌を作り歌わせるのではなく、その労力は現場安全に注ぎ、働きやすい環境に整えることが元請としての責任です。

今後、工期が差し迫り、切迫した労働環境の中で働く仲間が出てくることが予想されます。神奈川県建設では、首都圏建設組合と連携をとり、新国立競技場現場宣伝に継続して行動をしています。引き続き現場宣伝を行っていきませんが、仲間の中で現場改善の声がありましたら支部・本部まで連絡をお願いします。

「未来(あした)の風」新国立競技場オリジナル曲
サビ(テーマ)
挑みつづけて今を誇れたなら
仲間と共に創れる「未来」という風
Aメロ
懸命に働き流した汗も
悔しさにじんて流れた涙も
踏みしめて噛み締めて乗り越えて
いつか必ず嬉し涙にかわるだろう
Bメロ
大空に吹き抜ける風の在り処をつくってる
1サビ
挑みつづけて今を誇れたなら
仲間と共に創れる未来という風
愛を灯して今を生きたなら
絆と心がうまれる
2Aメロ
それぞれの夢や希望を詰め込んで
今日も僕らは歩いていく
徒然の毎日をさあここで変えて
今日も想いを馳せていく

建設業豆知識

日本が世界に誇る 東京タワーをつくった人たち・・・

東京タワーは自立式の鉄塔として当時エッフェル塔を抜き、世界一の高さを誇りました。その建設には2人の人物が大きな役割を果たしました。

ひとりは、東京タワーの建築主となった前田久吉という人物で、戦後、大阪放送や関西テレビ放送などといった放送局の創設を果たした日本のメディア王でした。前田は放送局がそれぞれ電波を発信していた当時、まとめて電波塔を建設したほうが景観的にも建設地確保のためにも良いのではないかと奔走し、芝公園に用地を見つけ、地主だった増上寺の檀家総代と交渉し建設用地を確保しました。

その後、333Mという前例のない塔を建設するために、早稲田大学教授だった内藤多仲が設計に関わりしました。鉄骨を三角形に組んでいくトラス構造方式は他のタワーと共通でしたが、曲率を変えながら末広がり立ち上がり、途中、絶妙な位置に設計した展望台がアクセントとなり美しいシルエットのタワーとなっています。ちなみに使用された鋼材の量は、エッフェル塔と比べて半分ほどの量でした。

東京タワーの建設工事現場では、今はタワークレーンで部材を吊り上げますが、当時はそのようなクレーンはなく、ケーブルで支えたマストと、その根元から斜めに突き出したブームからなるガイデリックという装置を地上に設け、組み立てていきました。完成したタワーは東京のテレビ・ラジオ放送を一手に引き受け、また多くの観光客が押し寄せる東京の名所となりました。

2012年、東京スカイツリーが完成し、電波塔としての役割を終えた東京タワーですが、日本のシンボルとなる象徴的な建築物です。



賃対ニュース

2月17日「県連賃金活動者会議」を行います!

発行
神奈川県建設一般労働組合
賃金対策部長 荒井俊喜
横浜市神奈川区神奈川2-19-3
TEL 045 (453) 9806
FAX 045 (453) 9807

処遇改善を勝ち取ろう 労働者供給事業の前進を目指して

2018年7月にはじまった「労働者供給事業」の2018年中の実績は、供給先企業が2社・供給現場が4現場・2018年末までの送り出し人工は延べ約290人・給与総計約650万円となりました。

供給事業に従事した組合員の方は3人でしたが、その中で実際に働いた仲間からは「労働条件が決められていて安心して働けた。給与の面では安定した金額が毎月振り込まれ、金物や接着剤などの副資材を購入しなくてもよいのでお金が減っていかない。余裕ができた中で、新しい道具を購入し、供給事業が終わった後の仕事に備えることができる。」という感想がありました。

建設労働組合が、企業と労働条件を取り決め、期間を定めて雇用されるこの事業は、働き方を大きく変える運動になります。一人親方や手間請け、常用、雇用労働者など様々な働き方が存在する建設産業ですが、適正な労働条件で雇用されるという選択は「安心・安定」につながります。

今後新たな供給先企業との締結を目指していくにあたり、早急に組合員の登録をすすめていくよう様々な機会周知をお願いいたします。今春の拡大月間での組合員訪問では、組合のメリットを最大限に伝え仲間の処遇改善に向けて奮闘していきましょう。2018年秋には労働者供給事業に関心があるという理由で組合加入がありました。組合未加入の対象者にもメリットを話していきましょう。



登録説明会にて送り出し教育の講師をつとめる荒井部長



供給現場で 中央:黒田さん、左:織田さん、右:荒井部長

大豊建設現場事務所で建退共現場説明会を実施

2018年12月13日、大豊建設元請の横浜市青葉区マンション新築工事現場事務所で、建退共制度説明会を行いました。

当日は、現場従事者9人・大豊建設職員2人が集まり、加入手続きや元請ゼネコンの対応の違いなどの質疑があり、その中の1社が早速共済契約を行いました。

大手企業交渉で証紙の貼付を要求することを続けてきた結果、民間工事においても証紙を貼付する元請ゼネコンが増えてきています。組合内でも説明会などを行い、加入を推進していきましょう。(各企業の対応はP2参照)



2018年秋「第68回大手企業交渉」主な回答一覧表

2018年秋に行われた「第68回大手企業交渉」の各社の主な回答になります。各企業の産廃費の徴収や駐車場代の徴収の有無が回答されています。また民間工事でも建退共証紙を貼付すると回答している企業が増えています。

企業名	産廃処理費 徴収なし	駐車場代徴収 なし	リフト代 徴収なし	民間工事建退共 証紙貼付あり	設計労務単価表現 場揭示あり
鹿島建設	▲（原則として）			▲（半分負担）	▲（個別対応）
竹中工務店		▲（敷地内）	○	▲（半分負担）	▲（個別対応）
大林組	▲（原則として）			○	▲（個別対応）
大成建設		▲（公共施設内）		▲（個々対応）	
清水建設				○	○
戸田建設	○			○	○
前田建設工業				▲（一部で）	
三井住友建設		▲（公共施設内）	○	○	○
西松建設		▲（敷地内）	○	○	
熊谷組		▲（公共工事）	○	○	○
東急建設	○			○	○
東洋建設				○	○
フジタ		○	○	○	
浅沼組			○	○	
ピーエス三菱				○	
大豊建設		▲（敷地内）	○	○	○
佐藤工業	○			○	
長谷工コーポレーション	▲（一定量以内）	▲（敷地内）	○	▲（個々対応）	▲（個別対応）
五洋建設	○		○	○	
鴻池組		▲（敷地内）	○		
奥村組	▲（原則として）			○	
銭高組		▲（原則として）	▲（土木では）	○	
鉄建建設		▲（公共工事）	○	○	○
東亜建設工業	▲（原則として）		○	○	
飛鳥建設	▲（原則として）	▲（原則として）	○	○	▲（検討）
松井建設				○	
N I P P O	○	▲（原則として）	○	○	
大日本土木				○	
安藤ハザマ				○	
きんでん					
関電工	○	▲（敷地内）		○	
ダイダン				○	
新菱冷熱工業	○	○	○	○	
高砂熱学工業	○	○	○		
積水ハウス	○				
大和ハウス工業	○	○	○	▲（一定基準有）	
住友林業	○	○	○	▲（半分負担）	
ミサワホーム	○	○	○		
三井ホーム	○	○	○	○	
大東建託	○			○	
旭化成ホームズ	○	○	○	○	
積水化学工業		○	○		

2018年建設研究交流集会 帰還困難区域「双葉町」の現地視察を終えて 横須賀三浦支部・西川智幸

2013年から毎年続けている福島現地視察を今回も実施し、帰還困難区域に指定されている双葉町の現状を西川さんが視察をしてきました。

2018年12月3日、常磐自動車道で現地に向かう途中、双葉町に入ったところで線量測定器のアラームが鳴り響き、3.7μシーベルトを計測し



ていました。大変驚きましたが、月日が経過してもこれが現実なのだと思います。その後、町に入り徒歩で視察をしましたが、線量は0.36～0.42μシーベルトでした。これは除染作業をしたから線量が下がっており、一応の作業効果が現れていると感じました。「東日本大震災・原発事故」から7年10ヶ月経っていますが、双葉町は津波の被害ではなく、地震の揺れで家屋の倒壊があり、その上に原発被害があり、町は廃墟でした。この状況では住民の方は町に帰れないというのは分かる気がします。今回、現地視察をして、現状を確認出来たことは忘れることはできません。今後は今回感じたことを多くの人に伝えていければと思うのと同時に、横須賀市も米軍原子力空母の母港となっており、万が一の地震・津波の際は人事ではありません。一人の力ではこのような機会を作ることは難しく、組合の力で視察できたことを感謝します。

臨海地域プラントに働く仲間たち JFEスチール工場見学 挨拶はピースサインで「ご安全に！」

11月30日、神奈川土建本部・川崎支部・横浜鶴見支部が、神奈川県連の仲間とともに川崎市の扇島にあるJFEスチール東日本製鉄所京浜地区の製鉄工場を見学しました。この間、川崎・横浜鶴見支部など臨海部を中心とした工場・プラント関係従事者の加入が相次いでいます。プラントで働く仲間の現状・実態に触れる機会となりました。JFE関係者専用のトンネルで渡った扇島は、東京ドームが120個入る(550万㎡)といわれる大きさで、原材料の陸揚げから、炉に入れ、製鋼、圧延、海外への出荷までひとつの流れでできるように設計されています。広大な敷地の中に、2,000度におよぶ高熱を扱う設備があり、その異常への対応やその他の建物の改修など、電気・設備など下請けに入っている多くの仲間がいます。「安全はすべてに優先する」をモットーにしたJFEの行き交う仲間同士の挨拶はピースで「ご安全に！」。社会保険や労働保険への対応、そして賃金や安全衛生など求めるものは同じですね。工場やプラントで機械の設置や電気・設備などで働くみなさんにも神奈川土建への加入を勧めていきましょう。

